

同窓会

の

# チカラ

同窓会のための情報誌

2023

紹介●同窓会活動紹介

- ・大人の文化祭：東京都立富士高等学校創立 100 周年  
「大人の文化祭」実行委員会

- ・生徒達の将来のために：淳心学院中学校・高等学校同窓会

リレー連載 ●私と同窓会

- ・為廣尚武（広島県立西条農業高等学校同窓会・顧問）

紹介●同窓会活動紹介

- ・紫草が育む学びの心：岩手県立平舘高等学校同窓会

- ・同窓生ナビ：石川県立金沢錦丘高等学校同窓会

- ・掲示板の新たなチカラ：長野県諏訪二葉高等学校同窓会

わが学び舎

- ・栃木県立宇都宮高等学校同窓会

*Our Proud*

栃木県立宇都宮高等学校・旧本館  
1893年（明治26年）竣工 木造2階建、瓦葺  
寄棟造の大屋根を架けた県内最古の学校建築。国登録有形文化財（建造物）

Vol. 15

# 大人の文化祭

## 東京都立富士高等学校創立100周年 「大人の文化祭」実行委員会

改めて知る「富士DNA」の素晴らしさ



◀創立100周年記念「大人の文化祭」ポスター

●令和3年（2021）11月13日、東京都立富士高等学校（東京都中野区）では創立100周年記念事業の結びを飾る「大人の文化祭」が開催された。

コロナ禍の下、1年の延期を余儀無くされた企画だったが、100年の歴史を顧みつつ未来へと向かう意識をこめた「大人の文化祭」は、富士高卒業生のみならず多数の来場者を集め、大成功だったという。一体どういった内容の「文化祭」だったのかを実行委員長として活躍された飯島章博氏に伺った。

### 「大人の文化祭」企画の経緯

この企画は、2015年5月に「100周年事業検討委員会」が発足し、周年事業の内容について検討する目的で、私（CMディレクター）をはじめ、イベント制作や、雑誌のライター、作曲家などちよつと変わったことを仕事としている卒業生に、それまで面識の無かった同窓会の先輩役員から声がかかったことに始まります。

お話があったとき、最初に浮かんできたのは、100年に一度の記念事業で従来通りの「祝賀会」だけでは面白くないという思いです。そこで考えたのは「富士高の自由な校風」がいろいろな分野で活躍するOB・OGを沢山輩出していることでした。実業界から法曹界、学問、文学、音楽、美術、映画、Jリーガーそしてプロ雀士までいる。こんな幅広い分野に、こんなすごい先輩がいることを後輩たちに伝えたい、またこれから進路を決める小学生とその保護者にも見てもらいたいと考えたからです。

そこからは次々と、コンサートや美術展、映画館もできるのではないかととなり、これはまさに「文化祭」だとなり、ネーミングも自然と「大人の文化祭」と決まりました。しかし、検討委員会では、過去に前例が無い企画に対しては中々受け入れてもらうことが容易でない状況がありました。自分の中にも「やはり祝賀会がいいか」という思いが芽生え始めていた頃、検討委員会の帰り際に、当時の上野校長が「面白い！絶対に成功させよう！」と言ってくれました。この言葉が、私の背中を強く押し、「よしやろう！」となったのです。

こうした経過を経て2017年4月、第1回「大人の文化祭」会議が開かれました。以後、絶え間ない内容の検討とともに、具体的メニュー構成やボランティアスタッフの募集、各メニューの関係者、出演者、演奏者、学校関係者などなど、膨大な数の人との交渉、打ち合わせなどが続きます。

「大人の文化祭」ではネットでのライブ配信も予定されましたので、そうした方面での配慮・手当も必要です。また「大人の文化祭」専用HPの開設、予告編のYouTubeへのアップ、予定会場である校舎のロケハンなどもあり、さらには来場者が相当な数にのぼることが予想されましたので、いざという時に備えての救護体制も整えなくてはなりません。

こうした企画の検討準備と同時に、予算面への対応として2018年11月からクラウドファンディングを開始しました。結果的にはこのクラウドファンディングと協賛広告で約300万円以上を集めることができ、同窓会からの支援金（100万円）と合わせてその予算を賄うことができました。

### コロナ禍での「大人の文化祭」準備

2020年4月「新型コロナウイルス緊急事態宣言」が発令されました。この事態を受け100周年記念事業の1年延期が決まりました。しかも先の見えないコロナ感染症拡大の中で、混雑が予想される「大人の文化祭」の学校での開催は断念せざるをえなくなりました。

そうなるかと代替の会場をどこにするのかという大問題が発生しました。私はダメ元で「なかのZERO」はどうかと言いました。が、廻りの誰もが「それは無理だ」と、思った通りの反応を示しました。しかし、当時の野村校長がその交渉にあたってくれて奇跡的にほぼ全館貸し切りでOKの回答もらってきたくれました。これを受けて「大人の文化祭」は、2021年11月13日（土）開催を正式決定しました。

2021年5月、HPをリニューアル、7月にはLINE、インスタ、ツイッターがスタート。同31日にはZOOMによる会議を開催、8月に「なかのZERO」のロケハンと、開催に向けてスタートがかかりました。そして9月、10月の最終土曜日と11月7日にカウントダウン的な「ZOOM全体会議」を開催しました。飛び入り参加歓迎の形式です。またこの間、中野区と杉並区の掲示板に「大人の文化祭」のチラシを手分けして掲示しました。

### 「大人の文化祭」を終えて

当日は1300名の来場者を迎えることができ、結構な混雑ぶりですが結果的には学校



●問い合わせ先

飯島章博（「大人の文化祭」実行委員長）  
e-mail : iiman@jcom.home.ne.jp

▼「後夜祭」

▼「仕事館」の展示



飯島章博（いじま・あきひろ）氏（高31回）  
東京都立富士高等学校創立 100 周年  
「大人の文化祭」実行委員長



大人の文化祭 企画・展示内容一覧

- ◆**歴史館**：歌舞伎町から始まった府立第五高女、そして都立富士高校の歴史・文化・校風などをパネルと映像で紹介。歴代の文化祭ポスターの展示。
- ◆**美術館**：桂ゆき、堀文子から清水慶太、中島健太まで、卒業生の画家・デザイナーたちの作品展。25名の作品を展示。
- ◆**仕事館**：最高裁長官から、プロ麻雀界のレジェンドまで！卒業生のさまざまな分野での仕事を紹介するパネルの展示。109名を紹介。
- ◆**富士文庫**：卒業生が執筆した小説、絵本、写真集の展示。33名の著書を紹介。
- ◆**部活写真展**：富士高校部活動の写真展。当時のユニフォーム等の展示。
- ◆**対談**：木村ひさし（映画監督）× 和田竜（小説家）  
北村有起哉（俳優）× 松田広子（映画プロデューサー）
- ◆**音楽祭 Stage A**：プロ・アマ問わずアコースティック部門の音楽祭。
- ◆**音楽祭 Stage B**：プロ・アマ問わず Rock 部門の音楽祭 FUJI ROCK!!
- ◆**映画館**：高校時代の文化祭で制作した映画の上映。
- ◆**学習館**：ヴァイオリン公開レッスン、美術館の楽しみ方など、その道のプロが指導。ラオスからの生配信も。
- ◆**法のプロフェッション**：先輩に聞く Q&A セッション。
- ◆**小学生クイズ**：クイズに答えて「フジチュウハイチュウ」をゲットしよう。富士中に入っちゃおう!? さりげなく小学生に富士への興味をもってもらおう。
- ◆**百年珈琲**：ブラジルシティ・ノーボ農園が栽培する奇跡の樹齢 100 年コーヒーを阿佐ヶ谷でカフェを運営する OB 夫妻が提供してくれた。
- ◆**グッズ販売**：記念バッジ、Tシャツの販売。ラオス・首里城のチャリティーグッズ販売。
- ◆**保健室**：コロナ禍ですので、保健室も。現役のお医者さんが待機しました。
- ◆**年代別・部活別館**：年代別・部活別の自由な出し物の部屋。「昭和歌謡ショー（31期）」「外交官と話そう（30期）」「物理なんでも相談室」「バレー部」「水泳部」など
- ◆**LIVE 配信**：各展示室の館長、各分野で活躍する卒業生、校長のインタビューなどライブ配信。「なかの ZERO」に会場できなかった人にも大人の文化祭の熱気を伝えた。
- ◆**後夜祭**：2016年に富士高校オーケストラ部が演奏した「第五高女」から富士高校歌のアレンジ曲の上映。45期生の振付・演出の現役富士高生を含むダンサーが素晴らしいダンスを披露。

フィナーレ「F・U・J・U」  
フィナーレ「富士高校歌 Rock ver」



記念缶バッジと  
校章をあしらった 100 周年記念バッジ

でなくてよかったですと思います。「大人の文化祭」の大成功は、上は70歳代から下は20歳代前半の世代を超えた同窓生の総勢50名を超えるボランティアの存在があります。みんなが各々の担当する企画の中でアイデアを出しあった結果が、このような盛りだくさんの企画になりました。当日の企画の中では「歴史館」が常に満員盛況でした。「明るい話題だけでなく歴史をきちんと取り上げたいのは素晴らしい」と大勢の閲覧者からお褒めの言葉をいただきました。また「仕事館」は、大勢の方から情報をいただき自分一人ですべて作りました。自分の足で取材をし当日展示した100枚を超えるパネルもほぼすべて自分で作りました。取材を進めるなかで、残念ながら辿りつけなかった方、取材を断られた方もいらっしゃいました。

この「仕事館」や「歴史館」のパネルや美術館の展示などは個人情報や著作権の関係もあり、当日限りの展示の予定でした。

しかしスタッフのほとんどはご自分の担当のみで、せつかくの他の展示を見ていないとの事で、それならばと富士高校関係者限定で「仕事館・歴史館」の展示パネルと美術館のリーフレットを冊子とし、当日の講演や音楽会などはDVDにして実費でおわけしました。あくまで「本人限定・譲渡貸与禁止」に同意いただいた上です。これはスタッフの方々の一生の宝物ではないでしょうか。

※この事業を大成功に終わらせた飯島氏は同窓会報「若竹」のインタビューの中でこのようにお話しになっています。

「とにかく楽しかった。当初はお叱りも受けたし批判も頂戴したけど、終わったらみんな感謝してくれた。仕事柄（CMの演出・企画）あらかじめ全体の段取りを考えて進行管理をしていくノウハウはあるけど、なにせ一から作る結構壮大な計画

イベント制作やその道の仕事をしている同期の友人たちに支えられた。とにかく声を掛けると面倒くさいと言わないで一生懸命やってくれる、そんな富士高の素晴らしさが再認識できた」

今回の「大人の文化祭」では、困難が生ずると道が開けてくるという不思議な巡りあわせを感じました。もしお二人の校長の在職順が逆でも成し得なかったかもしれないと思います。今でも、この「大人の文化祭」は天の配剤かと思うことがあります。



▲当日開催前のサポーター全体会議



# 生徒達の将来のために

## 淳心学院中学校・高等学校

### ワークショップ

### 「はたらくらボ」の開催



#### ●連絡先

学校法人 淳心学院  
淳心学院中学校・高等学校  
〒670-0012  
兵庫県姫路市本町68  
TEL: 079-222-3581

松葉 幸三（まつば・こうぞう）氏（19回卒）  
副校長／同窓会会計兼事務局

●淳心学院中学校・高等学校では、毎年30代前半から半ばの卒業生を講師として複数招き、少人数に分けた中学3年生のグループを対象に「はたらくらボ」というワークショップを開催している。生徒たちの将来のために、同窓会名簿を有効活用するその実態について長年同窓会事務局を担当し、現在は同校副校長でもある松葉幸三氏に伺った。

本事業である「はたらくらボ」のお話をする前に、本校の特徴や教育制度などを少し説明した方がこの事業の目的や背景をご理解いただきやすいと思います。

本校は、中高一貫の男子校なのですが、6年間を通じて進路実現に必要な知力とその先の将来を見据えた生きる力を育むことを目的とし、以下の制度を取り入れております。それは、6年間を2年毎に、基礎期（Junior: J1・J2）⇨中1・2に相当、充実期（Middle: M3・M4）⇨中3・高1に相当、飛躍期（Senior: S5・S6）⇨高2・高3に相当、と3つのカテゴリーに分け、基礎期では基礎学力の確立、充実期では将来像の構築、飛躍期では応用力の完成を目指して生徒たちの教育に取り組んでおります。

また、M4以降の3年間は単位制を導入していることもあり、毎年4月の始業式前後にM4の生徒たちを対象に「錬成会（れんせいかい）」という名称で単位制の制度について説明する機会を作っております。しかし15年ほど前から、単に制度の説明だけではなく、具体的かつ実践的な勉強方法なども伝えた方が良いのではという意見が出たため、本校を卒業した現役大学生を招き、講演してもらう機会を設けるようにな

りました。講師になってもらう卒業生は、理系・文系から医学、工学、経済学、経営学など広く人選を工夫しているため、生徒たちからも好評で、今では「まなびラボ」という名称で「錬成会」とセットで毎年開催しております。

一方、M3の生徒たちにとっては、高校入試がないという中高一貫校独特の事情もあり、「やらなくてもいい」という気持ちと「やらなくてはいけない」という気持ちが入り混じる、とても悩む時期でもありません。そのような事情もあつて、特に充実期である2学年の生徒たちに対して、いかにモチベーションを維持しつつ将来像を構築していくのが良いか、学校側もアプローチ方法を模索していたところ、大学進学についての「まなびラボ」だけではなく、その先の進路について卒業生に講演してもらう機会を作ってみようとなりました。これが「はたらくらボ」実施のきっかけであり、その対象がM3（中3）である理由です。

さて、「はたらくらボ」の事業内容ですが、M3を対象に毎年2学期に実施しています。本校はいずれの学年も約135名の少人数制のため、各セクションの定員が10名程度になるよう毎年10数名の講師を招いています。1セクションあたり30分の講演を2回、各会場の入り口にタイムスケジュールを掲示し生徒たちが主体的に考え、参加するセッションを選択します。

講師については、社会に出て10年くらい以上の経験を積んだ30代前半から半ばの比較的年齢が若く、もはや父親世代になってきますし、20代ですと仕事の経験も浅いなどの理

由から、この世代に絞って人選しております。毎年10数名の講師を選ばれるのは一苦労なのですが、この時一番役立つのが、同窓会名簿です。高校卒業後の進路先については把握できても、大学卒業後の勤務先までは学校側での把握は難しいため、同窓会名簿に掲載されている勤務先を頼りに、業界や職種が偏らないよう幅広い分野から選出しています。ですから、充実期の生徒たちの将来像を構築するためにも、定期的な同窓会名簿の発行は欠かせないものとなっております。

そのような努力の甲斐もあり、受講後の生徒たちは、世の中にはさまざまな仕事があることを学び、新たな発見や興味から自分の目指す将来像に向かって、より一層強い意志で勉学に励むようになりました。

今後も生徒たちの将来のために、同窓会として学校の取り組む事業に対し全面的に協力していきたいと思っております。



▲「はたらくらボ」の講義



●連絡先  
 広島県立西条農業高等学校同窓会・事務局  
 〒739-0046  
 広島県東広島市鏡山三丁目16-1  
 TEL 082-422-7279

# 私と同窓会

## 広島県立西条農業高等学校同窓会 顧問・為廣尚武

### 学校と歩み続ける同窓会活動



為廣尚武(ためひろ・ひさたけ)氏  
 (昭和36年卒/農業科8回)  
 西農同窓会・顧問

広島県立西条農業高等学校は、明治43年に広島県立西条農学校として開校し、これまでに25000余人の卒業生を世に送り出しています。

今日まで、農業高校の拠点校として、時代の変化に対応した先進的な教育活動を文武両道に亘って実践してきました。教育活動では、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)の指定を、第一期を平成24年度から受け西農教育の中心に置き実践しています。(現在第三期の2年目です。)部活動では、硬式野球部は甲子園に3回出場、陸上競技部は男女とも何度となく全国高校駅伝大会に出場し、男子は昭和34年第10回大会にて全国優勝しています。私事ですが、駅伝優勝時は2年に在学し、甲子園出場時は同窓会員の一人として大変喜んだことを今でも懐かしく思い出します。この時に学校・地域・PTA・同窓会が一体となり応援したことは、学校教育活動や同窓会活動のあるべき姿そのものだと思います。

#### 持続可能な同窓会活動の創造

私は、平成26年から同窓会会長を6年間勤め、その後は顧問として現在に至っています。会長就任時、学校・地域・PTAと一体感を持った同窓会活動を継続していくため、現状分析と将来ビジョンの構築、それを実現するための手段を明確にすべく、まずは他校同窓会の活動を参考にしようとして、県内外20数校の同窓会に調査を行いました。依頼先の同窓会からは丁寧な回答をいただき大変感謝しています。得られた結果から「組織改革」と「広報活動の充実」を重点的に取り組むこととしました。

#### 【組織改革】

従来、総会をはじめとする諸行事に、若い会員や女性会員の参加が少ない状態が続いていました。この状態からの脱却を図るため、活動目的を「平成元年以降の卒業生並びに全女性会員をもって組織し、同窓会活動の活性化を主たる任務とし、将来本部並びに支部役員など同窓会活動の原動力となる人材の育成を図る。」と掲げた「みずほ会」を平成30年に組織しました。「ソフトボール大会」「ハーバリウム講習会」「パーベキュー大会」など自由な発想に基づいた活動が実り、同年8月に開催した総会では、参加者の約半数を若年会員と女性会員が占めました。その後も「新会員歓迎ボウリング大会」「クリスマスリース作り講習会」等、同窓会に新しい息吹をもたらしています。

#### 【広報活動の充実】

学校の歴史は同窓会の歴史です。学校教育活動や同窓生の活躍を、在校生や同窓会員が共有するため、様々な記録を書籍として残しています。

西条農業高等学校は、平成22年に創立100周年記念事業の一環として大部の記念誌を発行しましたが、より身近に「学校の歴史」「西条農業の学校生活」「同窓生の活躍」などを、今後入学する生徒たちにも感じて欲しい、と考えました。そこで、学校と同窓会が協力して、記録の羅列ではない、読み物としての歴史を『西農物語』として編集し、毎年入学生全員に配布することとしたのです。

平成24年の初版冒頭で、当時の同窓会長は「西農100年の歴史は、同窓生の汗と涙の青春の歴史であり、このことを『西農物語』を通して次の世代に伝承し、より深化した西農教育を創造する糧としてほしい。」と述べられています。西農教育とは、「人格の陶冶、人間性の涵養」の精神を根幹としています。実際に修学旅行先のホテルより西農生の挨拶や姿勢、食事マナー等に対してお褒めのお手紙をいただいたこともあり。非常に嬉しい内容であるとともに「外から見た西農」を表す大切な記述として掲載させていただきました。このように、エピソードを中心とした『西農物語』は、学校教育の深化を反映させ、より多くの同窓生の活躍を紹介するために、5年毎に改訂版を発行しています。

#### 【その他、同窓会が発行している書籍】

◆『戦時下の西農生』  
 戦時下で西農生が体験した、教練・出征・勤労奉仕・被爆等の日記

#### ◆『一期一会』

開校から現在地に総合移転するまでの、60年間の教育内容の記述

#### ◆『西農同窓生の現在』

全国で活躍する卒業生の紹介、等

私たちは、活動目的として掲げている「同窓生同士の懇親と母校の教育活動に寄与する」ことを達成するため、学校や地域とも連携をし、時には皆様の取り組みを参考にさせていただきながら、活動を未来へ繋いでいきたいと思います。



『西農物語』三訂版

# ムラサキ 紫草が育む学びの心

たいらだて  
岩手県立平館高等学校同窓会

しこんぞめ  
ムラサキの栽培と紫根染の伝統を受け継ぎ  
地域社会に貢献する



◀紫草（ムラサキ）

●岩手県立平館高等学校は、スキー場や温泉など観光産業の盛んな八幡平市の唯一の高校であり、令和5年に創立75周年を迎える。同校は古くから南部地方の特産であった「紫草」に根ざした活動を長年続けていることでも知られている。この活動は、学校教育の一環であるだけでなく、地域社会への貢献にも繋がるものとして広く注目されているという。校章にもなっているその紫草への取り組みと、活動に至る経緯、また活動の現状と将来に対しての考えを、学校および同窓会の方々に伺った。

## 南部のムラサキの再生

紫草は日本の原野に自生している植物で、その根からは高貴な色とされる「紫色」の染料が採れ、いわゆる紫根染として広く知られています。かつては日本の各地で行われ、南部の地でも鎌倉時代以前から紫根染は大切な産業とされてきました。しかし明治維新を契機に南部地方の紫根染は急速に衰退し、後にその復活を目指したときには、既に紫草の栽培や紫根染の技法を伝える人は絶えていたといえます。大正5年、この紫根染の復興のため、県の主唱で紫根染技術の研究が始まり、各方面の努力によって見事復活、以来、紫草の栽培農家も増えて、紫根染は岩手の特産品として知られるようになります。

## 天皇陛下に献上した紫草

第二次世界大戦が終わった後、荒廃した国土を視察し国民を励ますために、昭和21

年から昭和天皇による戦後巡幸が始まりました。そして昭和22年の東北巡幸で岩手県を訪問した際、岩手に紫草が自生していることを知り、当時の県知事に、岩手の紫草を皇居吹上御苑内の野草園に移植してほしい旨の依頼がありました。これを受けて平館高校初代校長の小山真二郎氏が、同校の生物研究班の生徒と研究を重ね、昭和24年8月1日、校長と生徒2名は平館村の紫草を携え、県知事とともに上京し無事移植を終えました。平館高校の校章の紫草の花と葉は、このことを記念したものです。

## 紫根染の研究と地域への貢献

こうした歴史を背景に、平館高校は平成20年、創立60周年を記念して紫草の栽培を開始しました。

この「紫草の栽培」の実施に当たっては、当初より同窓生の藤田繁雄氏（普3回生）と小船清悦氏（普22回生）のご指導を仰ぎ、苗の提供・助言を頂いています。また植える場所は、本校敷地内の他、地域の自治会および八幡平市の理解と支援により、学校近隣の館山公園の一部を借用しています。

しかし、紫草はデリケートな植物で、土質、環境その他の変化に弱く、育て方が非常に難しい。そのため土地の開発などで自生地が減少すると、その再生も困難で、現在は絶滅危惧種に指定されています。全国で商業的に栽培されているものの、染色に使える紫根の育成は決して容易ではないと言われています。実際、平館高校でも同じ経験をしています。

6月に新1年生が紫草の苗を植え、10月に3年ものの紫草を収穫し、2月に紫根染

を行う、という流れです。平成22年度には生徒が1年次に植栽した紫草の根を2年半後に収穫し、その根で1・2年生が染めたハンカチをコースージュにして、卒業時に自らの胸に飾るといったスタイルが定着しました。

平成28年、長年紫根染の講師をされていた流霞道工房の沢口ハル氏が高齢で指導が続けられなくなったため、平館高校の「家庭クラブ」の部員が、その技術を受け継ぎ、紫根染を美しく仕上げる研究を始めました。そして、この研究を踏まえて市民向けの「紫根染体験教室」を開催したり、小学校への

### ●紫草を植える

紫草の苗を植え、目印に棒を立てる。  
紫根が採集できるのは3年後。



### ▲卒業式

卒業式で答辞を読む生徒の胸を飾る紫根染のコースージュ





●連絡先

〒028-7405 岩手県八幡平市平館 25-6

岩手県立平館高等学校

TEL：0195-74-2610（事務室）／FAX：0195-74-2290（事務室）



右から、

石川千枝（いしかわ・ちえ）氏／教諭・家庭クラブ顧問

小船清悦（こぶね・せいえつ）氏／元同窓会副会長

高橋時夫（たかはし・ときお）氏／同窓会会長

後藤知恵（ごとう・ちえ）氏／副校長

高橋益子（たかはし・ますこ）氏／同窓会事務局

出前授業をするなど活発に活動しています。こうした取り組みを「全国高等学校家庭クラブ研究発表大会」で発表した結果、平成30年には最高の文部科学大臣賞を受賞、5年連続全国大会出場を果たしています。

### 紫薫枕を贈る

昭和39年以来、平館高校家政科学科では生徒による手作りの「紫薫枕」を地域のお年寄りに贈る事業を行っています。これは家庭クラブの活動の一環で、令和5年で59年目になります。枕は当初「安眠枕」と呼ばれ名前は昭和47年に「紫薫枕」と改められました。現在と同じく家政科学科の全学年と普通科の1年生が手分けして製作しています。数量は半年で150個ほど。中身は地元特産の蕎麦殻で、地元の製麺所から無償で提供されています。

紫根染を開始してから後、紫根の効果も期待して、染料として使い終わった後の紫根を乾燥させ細かくしたものを20グラムほど「枕」の中に、蕎麦殻と一緒に入れることとなりました。昔から「紫根」は生薬として知られていて、頭痛の緩和や解熱、解毒殺菌の効果があるとされています。

そうして出来上がった「紫薫枕」は、毎年敬老の日に市内の敬老会に向き、卒寿を迎えるお年寄りに生徒から一つずつお渡ししています。高齢の方と話す機会など滅多にない今日の生徒にとって、この「紫薫枕」の贈呈は、現在まで続くお年寄りとの貴重な交流の時間だと思えますし、毎年のようにいただく「ゆつくり眠れます。ありがとう」というお礼のメッセージも、生徒たちにとっては大きな励みであり、社会を学ぶ貴重な

経験になっていると思います。また平成23年3月の東日本大地震の際にも、県立宮古北高校の合宿所に被災地支援として50個を、また同市内の老人ホームに80個、それぞれ「紫薫枕」を贈っています。

### そして新たなステップへ

こうした活動を続けるなか、紫草栽培は新しい段階へ踏み出しました。これまでは一定の大きさにまで育った苗を、創立60周年の「紫草の栽培」開始以降、小船氏から一貫してご提供頂き、それを植える所から始めていましたが、いよいよ自分たちの手から育てることに挑戦することになり、令和4年9月末に同窓会・PTA・生徒の総勢36名で紫草の種を播きました。翌年春には発芽する予定です。紫草の栽培で最も難しいのは種から育てることだと言われていました。最初から結果が出るとは思いませんが、遠からず努力が実る時は来るでしょう。

紫草の栽培をベースに「紫薫枕」作りや紫根染を通して自然と地域のことを学ぶ。縫製技術の習得や効率的な作業だけではなく、地域産業の担い手としての自覚や自信を育む。そしてその先の展開へと繋げる。また「紫薫枕」の製作や贈呈などを通して、さまざまな世代との関わりを持ち、その中から生まれてくる互いの存在の大切さ、感謝といった気持ちを深化させる・・・。

この「紫草栽培と紫根染」事業は、生徒が地元を含む社会との繋がりを意識し、共に発展していく貴重な機会だと思えます。同窓会は、これからも全力でそのサポートをして参ります。■



◀紫薫枕の贈呈  
平成31年



▶平丸くん  
平館高校公認キャラクター



▶枕本体の縫製

●染料を取り出す  
染色作業は、朝から放課後まで丸一日かかる。まず収穫した紫根をすり鉢で擦り、湯の中でも洗いしながら染料を出していく。複数回同様の作業を繰り返すことで徐々にきれいな濃い紫色が出てくる。ムラにならないように根気強くかき混ぜる。その液体に生地を浸し染めていく。



◀紫薫枕  
出来上がった「紫薫枕」  
「平丸くん」のカバー付



●連絡先  
〒921-8151 石川県金沢市窪6丁目218番地  
TEL : 076-241-8341 FAX : 076-241-8495  
E-mail : info@nishiki-ob.com

# 同窓生ナビ

にしきがおか

## 石川県立金沢錦丘高等学校同窓会

「同窓生ナビ」を通して錦丘高校同窓生を応援する



柴野 道雄（しばの・みちお）氏（高19期）  
錦丘同窓会・副会長

●石川県立金沢錦丘高等学校同窓会（錦丘同窓会）では、令和4年（2022）4月、全国各地で活躍する同窓生が経営する、あるいは勤務する企業やお店の情報を集めた「同窓生ナビ」というサイトを立ち上げた。これは同窓生が関係する企業を分野別にリストアップし、企業の概要や特色等の情報を記したもので、卒業生の将来にさまざまな形で資する可能性を秘めているという。そこでこの新しい「同窓生ナビ」の成立の経緯とこれからの展望を、錦丘同窓会副会長の柴野道雄氏に伺った。

もともと、このサイトを立ち上げる数年前から、役員を中心とした卒業生の間でフェイスブックを使つての交流が盛んになり、オフ会のような形で集まっていました。「せっかく集まるなら同窓生のお店に」ということで、情報交換をしい、同窓生の経営する飲食店を選んで開催していく内に、同窓生のお店をもっと多くの卒業生に知ってもらえたらいいんじゃないかという声が大きくなってきました。そこで、「卒業生を応援する」のであれば、飲食店に限らず、様々な店舗や企業を紹介できればいいというアイデアに発展し、母校創立60周年の記念事業の一つとして柴野副会長を中心に、業種・業態別に分類し見やすいサイトを作ることが企画されました。募集に関しては毎年発行する同窓会報にサイト開設のお知らせと掲載募集の告知を載せたり、口コミを通じて発信しています。

「同窓生ナビ」に掲載を希望する卒業生は、サイト内の新規登録画面から必要事項を入力し送信します。その入力された情報

を同窓会がチェックしサイトにアップするという流れです。卒業生が勤務している店舗や企業の掲載も可能ですが、その場合は経営者または責任者の了解が必要です。また、掲載に費用は必要ありません。バナー広告的な扱いではなく、そもそも「同窓生のお店を盛り上げたい」「せっかく利用するなら同窓生の会社」という想いで始めた企画だからです。

### 同窓生ナビが

#### 地域の問題解決に貢献

この「同窓生ナビ」の運営は単に同窓生の店舗や企業を紹介することだけを目的としているわけではありません。他の自治体でも同様かと思いますが、現在、高校を卒業した人のかかりの数が県外へ進学・就職しています。そして大学進学者の多くは、卒業後に主に大都市で就職している実態があります。

業種も多く選択の幅のある都会での就職を第一に考えるのは自然なことですが、故郷の金沢を中心とした石川県にもさまざまな企業があり、優れた人材を必要としていることを伝え、故郷回帰による就職機会の広がりをアピールし、地域の活性化はもちろんだこと錦丘同窓生のリクルーティングの一助たらん、というのがこのサイトのもう一つの目的です。

### 新しい情報発信地としての

#### 同窓会の広がり

将来的な展望として、20××年までに何店舗（何社）掲載という数値目標は決めています。まずは、さまざまな会員向けの案内の中で認知度を高め、このサイトの目

的と意義を広く知ってもらうことを目指していきます。

「同窓生ナビ」の構想開始から1年、少しずつではありますが、掲載者も増えていきます。

当サイトはまさしく、同窓会の活動目的である「会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与する」を実現できるツールです。錦丘高校創立60周年の記念事業の成功とサイトの発展に向け、同窓会一丸となって盛り上げていきたいですね。■



◀企業紹介ページ。イメージ写真と地図付。





# 掲示板の新たなチカラ

すわふたば  
長野県諏訪二葉高等学校同窓会



## ●連絡先

長野県諏訪二葉高等学校同窓会  
〒392-8549 長野県諏訪市岡村 2-13-28  
TEL & FAX : 0266-52-9595

伊藤 文 (いとう・あや) 氏 (高校27回)  
令和2・3年度同窓会長

## コロナ禍の中で見出した

### 二葉生応援のメッセージ



●長野県諏訪二葉高等学校(以下・二葉高校)同窓会では、長期にわたるコロナ禍の下、学校生活や学業そのものに困難を来している在校生に対して「掲示板」を用いた応援のメッセージを発信し続けている。一見すると古典的な手法に見える掲示板も生徒たちには好評で、メッセージに対する積極的な反応や「返信」もあり、一方的な情報伝達の掲示板ではない双方のメッセージ交換の中心的存在となっているという。本来卒業生の集まりである同窓会が、在校生に直接精神的支援活動を図っているその理由と背景を、同窓会前会長の伊藤文氏に伺った。

この掲示板のそもそもの始まりは、令和2年の春に遡ります。コロナ禍の下、二葉高校でも登校制限、活動制限という制約の中で学校生活が始まりました。その新学期の登校の日、校門前には3学年の先生方による手作りの立て札がありました。

「Team Futaba 共に乗り越えよう」  
「二葉生 その手で未来を切り拓こう」

それを目にした私たちは、生徒の気持ちに思いを致し、この事態に同窓会として何が出来るのかを考えました。その結果、5月「二葉生への継続的な支援をしよう。二葉生に同窓会を知ってもらおう」という考えの下、この立て札に触発された形で、生徒が毎日必ず通る生徒昇降口に「生徒への応援メッセージ」を記した独自の「同窓会の掲示板」を掲げ、併せて同窓会への希望や願いなどの声を自由に投稿できる「投書箱」も設置することになりました。それが令和4年の現在も続いているというわけです。

## 掲示板の設置と生徒からの反応

掲示板は月に1〜2回のペースで更新されます。製作は同窓会役員の持ち回りです。内容は担当する役員が決めます。具体的には「二葉生支援という基本精神」に沿ったものならば自由です。例えば「同窓会の役割紹介」「校地内植物紹介」「アンケート調査の結果」「お勧め本の紹介」などです。また同窓会の理事会や定期総会などの節目には、出席者から生徒へのメッセージが寄せられます。私たちの掲示板は、手作りの脚付き掲示板にA1サイズ用の紙一枚を貼っただけのものですが、手作り感いっぱい、気持ちのままそこに置いてあるような絵やメッセージ、情報などは、おかげさまで好評を得ているようで、それは投書箱への生徒の声にも表れています。同時に、こうした学校生活のさまざまな面についての生徒の意見が掲示板に寄せられるという積極的な反応に、私たち同窓会が少なからぬ励ましを受けたのも事実です。

## 同窓会と母校との協働を思う

私たちは「同窓会は母校を支援し会員相互の親睦を図る組織である」という常識から一歩踏み込んで、未来の同窓会員である在校生への支援もまた同窓会の重要な役割だと考えています。そして学校と緊密に協力しながら、学校とは違う側面で生徒たちの学校生活を支援すべく活発な議論を重ねています。これには、将来の同窓会活動の安定的運営という狙いもあります。

二葉高校同窓会は校内に同窓会室がありますから在校生にはそのメリットを活かして気軽に立ち寄ってほしいですし、ゆくゆくは在校生の「悩み事の相談所」のような機能を持つ場所でもありたいですね。とにかく今は、出来ることから学校支援の活動を進めています。例えば令和3年、老朽化した中庭のベンチの修繕に際して、二葉高校とご縁のある上諏訪小学校の学校支援ボランティア「上諏訪おやじ衆」の力を拝借するなど、二葉生ともども地域の「おやじ衆」との交流も生まれています。

更に、同窓会では生徒たちとコラボしてさまざまな活動をしています。令和2年5月に開始した掲示板が、生徒たちの間でも次第に認知され親しまれてきたのを感じた同窓会役員は、9月から生徒たちと共に「オリジナルマスク製作を希望する部活動支援」を推し進め、令和3年の11月までにのべ7つの部活動に対して支援を行いました。同窓会の「掲示板」をきっかけに活発になった学校と同窓会、在校生と卒業生の交流は、更に発展しつつ進行中です。

## ◀オリジナルマスク



▲「おやじ衆」のチカラで蘇ったベンチ

会費等のお支払いがスマートフォンからできます。郵便局よりも店舗数が多く、営業時間が長いコンビニ振込用紙を導入いただくことで、各校の入金件数は大幅に増加しました。今後はスマートフォンでの支払いが可能となり、より若い世代や外出の機会が少ない方からのご協力も見込むことができます。

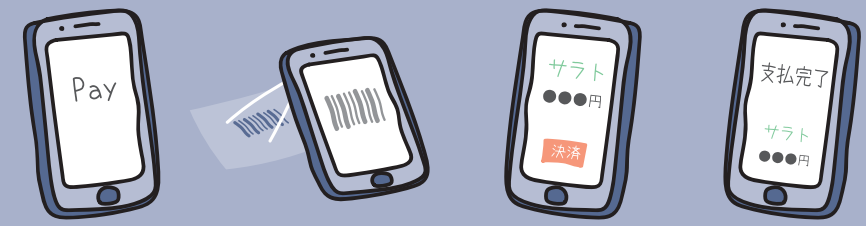
これからの同窓会費は

スマホでお支払い

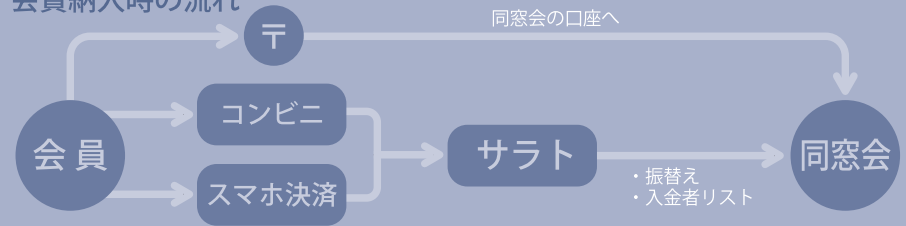


決済手順について

- ①スマートフォン等にスマートフォン決済アプリをインストールし、必要事項を登録します。(アプリで納付に必要な金額をチャージします。)
- ②アプリの請求書払いを選択し、振込用紙に印字されたバーコードを読み込みます。
- ③払込金額を確認し、支払手続きを行います。
- ④支払手続きが完了すると、支払完了画面が表示されます。



会費納入時の流れ



ご利用いただけるスマートフォン決済アプリ



※利用方法の詳細については、各アプリ事業者のHP等をご確認ください。



●連絡先 宇都宮高等学校同窓会  
〒320-0846 栃木県宇都宮市滝の原3-5-70  
宇都宮高等学校同窓会事務局  
TEL : 028-633-1426 / FAX : 028-637-7550

# わが学び舎

## 栃木県立宇都宮高等学校同窓会

和敬信愛 質実剛健 自律自治 進取究明

■生徒指標 (昭和20年12月制定)



### 学校概要

栃木県立宇都宮高等学校は宇都宮市内にある県立の男子校である。県下で旧制中学校を前身とする高等学校の中では最も古い歴史を持ち、平成31年(2019)に創立140周年を迎えた。進学実績は県下トップであり、多くの著名人を輩出する名門校である。

### 沿革

明治12年(1879) 2月13日 栃木師範学校付属予備学校を師範学校より分離し、栃木中学校として都賀郡菌部村に創立。入学者数72名/10月13日 栃木県第一中学校と改称  
明治18年(1885) 4月26日 県庁の宇都宮移転に伴い同地に移転/10月6日 栃木県中学校と改称  
明治19年(1886) 9月27日 栃木県尋常中学校と改称  
明治26年(1893) 7月25日 河内郡姿川村(現在地)に新築校舎落成し移転。生徒定員500名  
明治32年(1899) 4月1日 栃木県第一中学校と改称  
明治34年(1901) 5月17日 栃木県立宇都宮中学校と改称  
昭和17年(1942) 11月18日 講堂改築竣工  
昭和20年(1945) 4月1日 4年制実施(21年4月、5年制に復す)/12月生徒指標制定  
昭和22年(1947) 4月1日 新学制実施。第2・3学年は併設中学校となる。  
昭和23年(1948) 4月1日 新制高等学校となり宇都宮高等学校と改称。生徒定員900名。現校章制定。通信教育部開

設/11月1日 現校歌制定  
昭和25年(1950) 11月3日 報恩館落成式挙行  
昭和26年(1951) 4月1日 栃木県立宇都宮高等学校と改称  
昭和27年(1952) 2月13日 現校旗樹立  
昭和54年(1979) 5月25日 創立100周年記念式典挙行  
昭和63年(1988) 3月29日 旧本館(滝の原会館)移転  
平成元年(1989) 12月5日 滝の原主義の碑建立  
平成4年(1992) 5月17日 生徒指標の碑建立  
平成10年(1998) 7月23日 旧本館、国の有形文化財に登録  
平成15年(2003) 4月7日 文部科学省よりSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受ける。(3年間)  
平成18年(2006) 4月1日 文部科学省よりSSHの指定を受ける。(2年間)  
平成20年(2008) 10月17日 創立130周年記念式典挙行  
平成27年(2015) 2月2日 自修館整備の記念式典挙行  
平成30年(2018) 10月26日 創立140周年記念式典挙行



「初夏の風」の碑  
川上澄生は旧制宇都宮中学の英語教師であった。

### 表紙写真・解説

#### 宇都宮高等学校旧本館

明治26年(1893) 竣工。木造2階建、瓦葺。寄棟造の大屋根を架けた県内最古の学校建築。国登録有形文化財(建造物)

寄棟造の大屋根を架けた県内最古の学校建築。1階は事務室・職員室・校長室など、2階は広い1室の講堂で、木材は日光杉並木の杉材を用いている。全国中学校建築のモデルになるとともに、「白亜館」の名で卒業生のみならず多くの市民に広く親しまれている。現在は宇都宮高校の教育関係の資料を展示する『滝の原会館』として公開されている。

#### 滝の原会館修復募金

宇都宮高等学校旧本館「滝の原会館」の老朽化に伴い、この修復に向けて、同校OBらでつくる「滝の原会館整備運営委員会」が募金への協力を呼び掛けている。国の登録有形文化財にも指定されている同館だが、東日本大震災で損傷し、大規模な耐震補強工事が必要となった。宇都宮高校が創立150周年を迎える2028年までに約1億5千万円を目標額としている。



# ごあいさつ

## 会費のコンビニ・スマホ決済サービスについて



株式会社サラト・代表取締役  
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

●詳しくは、弊社ホームページから  
URL : <https://www.salat.co.jp/>



昨年から新たに導入した「同窓会費のスマホ決済サービス」を前号で紹介したところ、大変多くの同窓会様からお問い合わせをいただきました。おかげさまで弊社お取引校だけでなく、新規の同窓会様にもご導入いただきました。本当にありがたく、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今後世の中がますますキャッシュレス化していくことを考えれば、会費の徴収も「スマホ決済サービス」が近い将来主流になっていくのは自然な流れかもしれません。そのためか、少数ではありますが既に郵便局からの会費払い込みを中止し、コンビニ収納とスマホ決済サービスのみに切り替えた同窓会様もございます。これには、

- 郵便局での現金の払込みには、110円の新たな手数料が追加されたこと。
- 郵便局の営業時間内にわざわざ出向かなくてはならないこと。
- 貯金局での、新規口座開設が難しくなっていること。

などが影響していると考えられます。その結果、郵便局からの払込みが減り、その減った分がコンビニでの支払い・スマホ決済に移行したようです。

弊社では、これまでに収集したさまざまなデータから、払込方法の分析をおこないました。その結果、郵便局の利用が約30%、コンビニの利用が約60%、残りがクレジットカード決済でした。また、コンビニ収納を利用した方のうち、約11%の方がスマホ決済を利用しており、この割合は今後も増加していくものと思われれます。

ちなみに、現在ご利用可能なスマホ決済は（PayPay・LINEpay・auPAY・PayB）の4種ですが、実に79.7%の方がPayPayのご利用でした。

また生活圏内に郵便局やコンビニが少ない（または離れた場所にある）人ほどスマホ決済サービスの利用度が高いことも分かりました。

さらに、年代ごとで見ると、スマホ決済サービスはすべての世代で利用されています。導入前は、20代〜40代の利用が多いのではないかと予想していましたが、意外にも60代、70代の方々の利用が多く、キャッシュレス化が浸透しつつあることを実感しました。窓口やレジに行く必要もなく、非接

●制服オリジナルリカちゃんに  
新しい仲間が増えました

（お問合せは弊社まで。）



© TOMY

右から：  
東京都・東京女子学園高等学校／静岡県・静岡英和女学院／京都府、大阪府・  
学校法人 聖母女学院／兵庫県・神戸山手女子中学校高等学校



触型で手軽に利用できるスマホ決済は、今のコロナ禍を考えればベターなツールであることは間違いないですね。  
現在郵便局のみで会費徴収されている同窓会様は、ぜひこの機会に導入をご検討されてはいかがでしょうか？

私たちサラトは、同窓会のニーズに応え、会員お一人おひとりの利便性と満足度の向上、さらには同窓会の益々の発展のために、これからも全力でサポートしてまいります。

サラトは昨年（令和4年）、全国162校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様にご心より御礼を申し上げます。  
ありがとうございました。

## 同窓会のチカラ 2023年号／Vol. 15

(2023年4月発行)

編集・発行 株式会社サラト  
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172  
TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746  
東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7  
シモジンビル5F  
TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389  
E-mail [eigy@salat.co.jp](mailto:eigy@salat.co.jp)  
URL : <https://www.salat.co.jp>

**SALAT**  
Salat Corporation